

◆特集◆ ふるさとミライカレッジ～大学と連携して地域課題解決に挑む～

ふるさとミライカレッジとは

能代市は、少子高齢化の影響と若者の転出の多さによる社会減により、人口減少に歯止めがかからず、かつてにぎわいのあった商店街は、空き店舗の増加等により活気が失われつつあると感じます。

一方で、2019年から官民が連携し、公共空間や空き店舗等を活用したイベントを創出し、リノベーションや新たなコミュニティが生まれてきています。この動きを継続、推進してきているものの、若いプレイヤー不足が課題となっていました。

そこで、大学等の知見や大学生等の若者の視点を生かして地域課題の解決を図るため、総務省の実証事業である「ふるさとミライカレッジ」に市が応募し、採択されました。

同事業は、若者の力を生かした魅力的な地域づくりや人材の育成・還流の取組を加速させるため、三大都市圏外の市町村等が大学等と連携し、学生のフィールドワーク等を受け入れて実施するなど、若者の視点を取り入れた地域課題解決プロジェクトを支援するものです。

今回、東京大学の学生団体・東大生地方創生コンソーシアム、東北芸術工科大学、国際教養大学、秋田県立大学、秋田公立美術大学の大学生約20名が、9月から10月までの間の2週間程度能代に滞在し、地域課題解決に取り組んでいます。その活動の様子を取材しました。

大学生が取り組む地域課題

地域課題解決に向け、①商店街の魅力を伝える



木材企業を訪問する学生たち



空き店舗での活動を行う学生たち

パンフレットの作成、②木都能代の魅力を伝えるパネルの制作等情報発信、③コミュニティを活性化させる新たなイベントの企画、④空き店舗を利活用し、日常的にチャレンジを行なうことができるような新たな拠点を整備すること、の4項目に学生たちが分かれて活動に取り組んでいました。その中で、町なかを巡り、商店主や市民団体の関係者、木材関係の企業の話聞き、能代市の現状を知り、今の能代にとって地域課題解決の効果的な手法は何かを一生懸命考える様子が見られました。

また、空き店舗の整備では、壁塗りや家具製作等の慣れない作業を楽しみながら行っていました。

学生たちが取り組んだ内容は、10月26日に実施される「第10回のしろいち」で発表される予定となっており、成果発表に向け、様々な活動に取り組んでいます。

ました。ぜひ、「のしろいち」に足を運ばれ、成果発表をご覧になってはいかがでしょうか。

コーディネーターへのインタビュー

取材の最後に、今回のプロジェクトでコーディネーターとして学生たちのサポートを務める、株式会社Oriaiの代表取締役の松井大介さんにお話を伺いました。



コーディネーターの
松井大介さん

松井さんは、「この事業は、能代市で暮らす皆さんの人に関わりのあるものだと考えています。一過性にならないように事業を進めていきたいと考えています。また今回、商店主や企業の方々、まちづくりに関わる方々のお話や地域に対する思いを聞くことができ、ふるさととは人そのものであるということを改めて感じる機会となりました。今後も能代の活性化のために力を尽くしていきたいと思います。」と本プロジェクトと今後の地域活性化への思いを熱く語ってくれました。

取材を終えて

学生たちの地域課題解決に向けた活動の取材や松井さんへのインタビューを通して、地域課題解決のために活動してくれた取組を、この地域に暮らす私たちがつなげていかなければと強く感じました。

取材…阿部 誠、渡邊正人、藤田拓翔